2014. 7.6　日本基督教団 阿佐ヶ谷教会 図書委員会

☆☆図書室だより☆☆　☆第16号☆

☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆

2014年 4月(後期)～2014年 7月(前期)　新規登録の書籍をご案内します

書 名(ご寄贈書)		著者名など	出版社	分類シール
べてるな人びと	第１集	むかいやち いくよし 向谷地生良 著	一麦出版	〔 黒 369.28 Mu 1 〕
〃	第２集	〃		〔 〃 Mu 2 〕
〃	第３集	〃		〔 〃 Mu 3 〕
降りていく生き方	「べてるの家」が歩む、もうひとつの道	横川和夫 著	太郎次郎社	〔 黒 369.28 Yo 〕
別冊 太陽　日本のこころ 218	宮沢賢治		平凡社	〔 黒 910.268 Be 〕
書 名(購入書)				
宮沢賢治詩集	岩波文庫 緑 76-1	谷川徹三 編	岩波文庫	〔 黒 911.56 Mi 〕

ご紹介…　　加藤 真衣子 牧師より

『 神学のよろこび ～はじめての人のための「キリスト教神学」ガイド～』

アリスター・マクグラス 著　　芳賀 力 訳　　キリスト新聞社　　分類：赤 191 Mc

昨年度以来、地の塩会例会（カフェ・ド・キリエ）ではキリスト教教理の学びを続けています。学び続けていく中で、教理を学ぶことが私たちの信仰を明確に「言葉化」するために、大切なことだと感じています。私の準備段階で参考にしている中の１冊が、この本です。

原著タイトルは「Theology: The Basics」　神学の基礎的学びがとても読みやすく書かれています。巻末には神学の用語略解もあり、ちょっとした調べものにも役立ちます。

内容は使徒信条の順番に沿って、私たちの信仰の「主題」が一つずつ取り上げられています。「神」「創造」「イエス」「救い」・・・という風に。最後の章は、信条が「永遠の命を信ず」で閉じられるように、「天国（終末論）」という希望を論じています。

「神学のよろこび」を分かち合いましょう！

創立90周年記念全体修養会にむけて 図書委員会よりおすすめの一冊　**今日の一冊**

『 宮沢賢治詩集 』　谷川徹三 編　　岩波文庫

宮沢賢治[1896(明治29)~1933(大正8)]の童話・詩は今日あまりにも有名です。しかし生前に刊行されたのは童話集『注文の多い料理店』と詩集『春と修羅』(第1集)のみです。それも盛岡であり、また自費出版でありであまり注目されていなかったそうです。しかし死後徐々に読まれ、現在では知らぬ人は少ないです。さて、この岩波文庫の詩集は1950(昭和25)年に刊行されています。没後17年です。編者谷川徹三は哲学者ですが、自身詩も作ったそうです。その長男が私の少年時代すでに「20億光年の孤独」で高名な谷川俊太郎です。杉並区在住で高校を出ても大学に行かずに詩人として生きる姿を私たちは眩しく感じました。ところで、賢治詩は私には妹の死を歌った「永訣の朝」や「松の針」などをはじめ澄み渡った空に心が沁みこんでいく透明感を感じさせます。そして手帳に遺稿として残されている「雨ニモマケズ」は人の生き方の理想と美を感じさせます。福音書のイエスがもし日本の岩手で近代に生きていたらきっとああだろうと思います。極たまにこんな人がいます。「ジブンヲカンジョウニ入レズニ」「オロオロアルキ」「ホメラレモセズ」「クニモサレズ」に生きている人。「サウイフモノニ　ワタシハナリタイ」。(M.N.)

‘べてるの家’　の本たち

‘べてるの家’は精神障がい当事者の活動拠点です。当図書室には関係図書がありますが、今回あらたに『べてるな人びと第1～3集』が寄贈されました。著者向谷地生良氏の働きや精神医療分野への影響も含めて、３名の方に紹介文をいただきました。

『べてるな人びと 第1集』　『〃　第2集』　『〃　第3集』

向谷地生良 著　　一麦出版

向谷地生良さんは30年前から、私の帰省時に元浦河教会が隣町の浦河教会と合同礼拝をまもった時に元祖べてるメンバーの早坂潔さんたちと出席されていた。彼の「証」を伺って共感を持ち、帰省の度にべてるの家を見守っている。『べてるな人びと』は向谷地さんが、2006年から月刊『スピリチュアリティー』に6年間にわたり掲載された記事を纏めたものである。

浦河日赤の川村敏明精神科部長と向谷地さん（現在は北海道医療大学教授とべてるの家理事）は、特に爆発系の統合失調症の患者に現在主流の薬による緩和療法とは真逆の、薬を減らし本人の症状を自ら客観的に分析して語り、同病の仲間たちと協議を重ねる「当事者研究」という手法を確立した。この手法は、今浦河のみならず日本中や諸外国で取り入れられている。この書籍では、向谷地さんがべてるの家や各地で依頼を受けた患者に寄り添い、患者自身が症状を分析して語ることで自分を取り戻す様子が描かれている。また、この手法は学校の保健室など他の分野でも適用されている例にも触れている。(TT)

☆『スピリチュアリティー－SPIRITUALITY－』一麦出版社　（当図書室未収蔵）

『べてるの家の「非」援助論　そのままでいいと思えるための25章』

浦河べてるの家 著　　医学書院　　分類：黒 369.28 U

「精神病は友達のできる病気です。」と言って、自分の病気を受け入れ、ありのままの自分で生きているべてるの家の日常は笑いに満ちている。べてるの家の歩みは、精神的な病を持つひとたちが教会の一角を借りて地域貢献を根底とした商売を始めたことでスタートした。いつも問題だらけのべてるだが、「安心してサボれる会社作り」というキャッチフレーズのもと、当事者も地域住民と共に過疎の地域の課題を担い「降りる生き方」「弱さを絆に」「弱さの情報公開」「三度の飯とミーティング」「幻聴から‘幻聴さん’へ」を大切にしている。これらの理念は、精神障がいを抱える人たちが「生きる苦労」を取り戻す過程の中で生み出されたものだ。障がいを抱えていると孤独に陥りやすいが、仲間と語ることで人と繋がり、徐々に言葉を取り戻していく。この本は、専門家、または援助者としても当事者の新しい関係性を見出せる一冊だ。べてるの家の理念が詰まった25章。(MM)

『治りませんように』

斉藤道雄 著　　みすず書房　　分類：黒 369.28 Sa

『治りませんように』は、先著『悩む力』に続いてべてるの家の取材を続けているジャーナリスト斉藤道雄さんの本です。私は2009年に図書室でべてるの家の本を読んで興味を抱いたのをきっかけに、読書会等を企画しながら現地訪問の有志を集い、また教会員のT兄のご協力を得て2010年にべてる祭りへ行ってきました。本に出てきた人たちの予想以上の芸達者ぶりに笑ったり創始者で理事の向谷地さんと話せて感激したり北海道は食べ物も美味しく一緒に行ってくれたメンバーにも恵まれて短いけれどとても楽しい旅でした。この本を読んだのはその数か月後だったと思います。新しい薬エビリファイの騒動や病院で起こった殺人事件、本でおなじみの方々の死等最新の姿がドキュメンタリーのように書かれていて少なからず衝撃を受けました。しかし4年たった今再読してみると事件そのものよりも死とか生きる意味とかを繰り返し問う著者や向谷地さんの姿が印象的です。お祭りじゃないべてるの家へも行ってみたい！って気にさせる本です。(HM)

☆『悩む力　べてるの家の人びと』斉藤道雄 著　みすず書房（当図書室未収蔵）